

5. 6. 19 毎甲

小松基地
地周辺

壁音防綿石の中小

ボロボロ崩れ危険

国の予算で校舎改築を

市議会で追及

航空自衛隊小松基地周辺の小、中学校の防音工事の一部で、発がん性や肺障害の原因物質として問題化している石棉(アスベスト)が防音材に使われていたことについて、十八日開かれた小松市議会で、川上芳男市議(社会)が取り上げた。

「卒業生の健康調査を」

同基地周辺の小中学校で一校が、昭和三十五年から防衛一平を実施。このうち小学校では、小学校十八校、中学校八校(加設)の補助金を受け防音工(芦城小(西町)▽稚松小(殿



傷みの激しい芦城小のアスベスト防音壁

町)▽安宅小(安宅町)▽日末小(日末町)の四校が、中学校では、丸内中(小寺町)

吸音ボードに付け替え中 市教委

しかしその後、はく離が目立ち始めたため、同市教委では、石棉を吹き付けていた壁、天井を、安全な吸音ボードに付け替える工事を実施中で、現在、四校で工事がすでに終わっている。
川上市議は質問の中で「防音用の石棉は有害で、低学年層に与える影響は大きい。壁などの石棉がむき出しになった学校もあり、子供たちがむしったりして遊んでおり危険だ。国の予算で校舎の改築をするよう市として働きかけ、四十歳以下の卒業生については健康調査を実施する気はないか」とたじた。これに対し、竹田又男市長は「まだ付け替え工事はすんでいない程

▽芦城中(芦田町)の二校が、防音材としてアスベストを使用していたことが同市教委の調査で判明。いずれも昭和三十五年から同三十八年にかけて建設された校舎で、当時、石棉が防音用の建築材料仕様書で吸音材指定を受けていたことから、天井や壁に吹き付けたらしい。

松小は今年の夏休みに、芦城小は来年中に工事予定だ。健康調査については考えていないが、関係学校については子供たちが石棉にさわらないよう市教委を通じ、十分指導して行く」と答えた。